

今、何の病気が流行しているか！

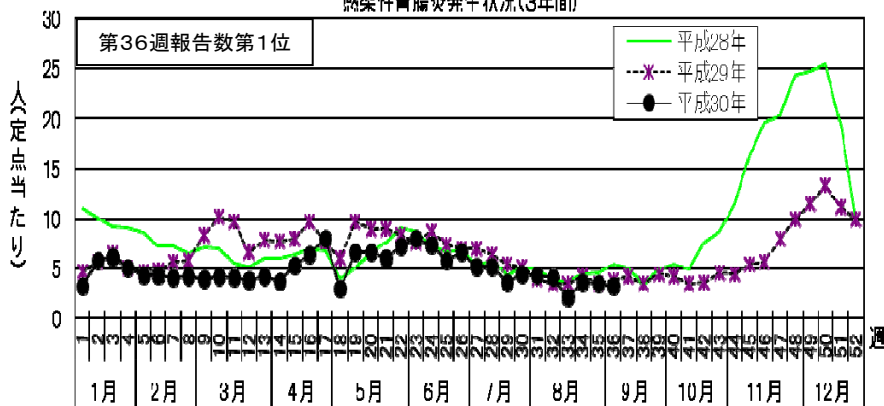
【感染症発生動向調査事業から】

平成30年9月3日（月）～平成30年9月9日（日）〔平成30年第36週〕の感染症発生状況

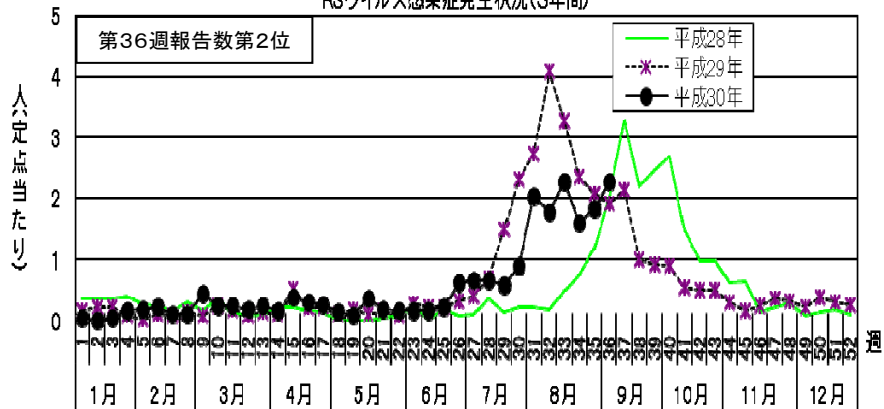
第36週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) RSウイルス感染症 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.24人と前週（3.46人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.27人と前週（1.84人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.19人と前週（2.19人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



RSウイルス感染症発生状況(3年間)

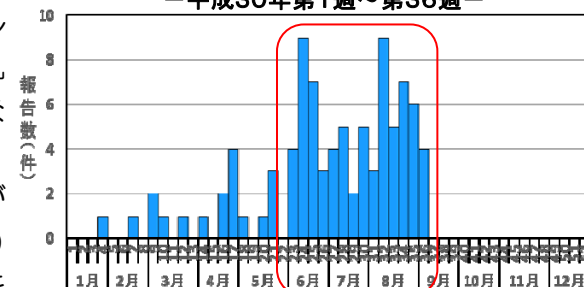


ワクチン未接種の乳幼児は要注意！～百日咳～

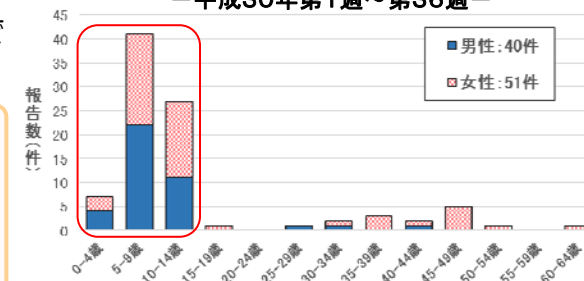
百日咳は、百日咳菌を原因とする急性の細菌感染症です。特に乳幼児が罹患すると重症化しやすく、罹患した新生児やワクチン未接種の乳児の半数以上が呼吸管理のため入院加療となったとの報告や死亡例の報告もあります。

市内では6月以降、毎週2件～9件の届出があり、第23週～第36週（6月4日～9月9日）は累計で73件にのぼりました。約9割を占めていたのが15歳未満の小児でしたが、ほとんどの事例でワクチン接種歴があり軽症でした。

川崎市における百日咳発生状況
—平成30年第1週～第36週—



川崎市における百日咳性別・年齢階級別発生状況
—平成30年第1週～第36週—



百日咳とは？

感染経路：咳やくしゃみ等による飛沫・接触感染

潜伏期間：おおむね7～10日

症状：かぜ症状で始まり、長く続く咳に加え、短く激しい咳が連続して起こり、笛の音のような音が出る咳発作といった特徴的な症状を示す。

治療方法：適切な抗菌薬での治療

予防方法：ワクチン接種



百日咳菌は、抗菌薬による適切な治療により、通常は服用開始から5日後にはほぼ陰性となります。特に、発症から約2週間の間に服用すると有効であるといわれています。